教育プログラム・コースの概要

大学名等	慶應義塾大学大学院医学研究科
教育プログラム・コース名	ライフステージ別がんリハビリテーション習得コース（インテンシブコース）
対象職種・分野	医師、リハビリテーション専門職（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）
修業年限（期間）	3か月
養成すべき人材像	がんリハビリテーションに関して、ライフステージごとに異なる知識・スキや病期（急性期、回復期、地域生活期）に応じた実践方法を習得することで、本分野における指導的役割を担うリーダーを育成する。
修了要件・履修方法	・本コースで定める科目について、7割以上を履修し、試験に合格すること。
履修科目等	がんリハビリテーション（総論・各論）講義：8時間、症例検討（発表）：4時間、グループワーク：4時間
がんに関する専門資格との連携	リハビリテーション科専門医（日本リハビリテーション医学会）の研修施設として認定。 「がん患者リハビリテーション料」、「リンパ浮腫複合的治療料」の算定要件を満たす施設として認定。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	・2016年12月に改定された、がん対策基本法では、第17条に、「がん患者の状況に応じた良質なリハビリテーションの提供が確保されるようにすること」が追加され、国や地方公共団体においても、がんリハビリテーションに関する施策を推進する方針となった。しかしながら、我が国においては、がん専門医療機関においてすら、がんリハビリテーションが十分実施されているとはいえない。 ・第1～3期がんプロにおいても、がんリハビリテーションのコースは、本大学、京都大学、神戸大学のみであり、第4期がんプロにおいて、引き続き、しっかり推進すべき分野であると考える。 ・本コースでは、がん患者のライフステージや病期別に、がんサバイバーシップケアとしての、がんリハビリテーションの診療と臨床研究を体系的に学べるという点で新規性がある。 ・我が国で数少ないがんリハビリテーションに関するコースとして独創性がある。
指導体制	がん医療の質の向上等により、がんサバイバーが増加しつつある中、がんサバイバーに対するケアの推進が喫緊の課題であるが、リハビリテーション診療は、治療と仕事の両立支援、介護予防、終末期の療養生活の維持・向上の観点からも、重要な役割を担う。がんリハビリテーションのエキスパートである指導教授・担当教官が各地域でリーダーとなるリハビリテーション専門職の養成を行う。
修了者の進路・キャリアパス	本コース修了後は、所属先施設の地域において、がんリハビリテーションの普及・啓発、教育に関して指導的役割を担う人材となることを期待する。 また、本大学大学院修士や博士課程に進学し、さらに研鑽を積むきっかけとなることも期待している。
受入開始時期	令和5年10月

受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	4	4	4	4	4	4	24

受入目標人数設定の考え方・根拠	過去の志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度4人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を4人と設定。

履修者数 ※当該年度に「新たに」入学した人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	9	9					18